

千葉県富津市富津漁港（下洲地区） PR資料

富津漁港（下洲地区）概要

【観光の概要】

- 富津市は、房総半島の中西部東京湾側に位置している。
- 富津漁港が位置する富津地域は市域の北側にある市の中心地で、臨海部に京葉工業地域が立地する他、富津岬と県立富津公園、大型商業施設、市役所が立地している。
- 富津市の人口は令和6年3月末で40,844人である（市統計資料）。
- 富津市の産業分類別就業者数・構成比（令和2年国勢調査）は、第1次産業1,125人・6%（漁業398人・2.0%）、第2次産業5,446人・27.0%、第3次産業12,907人・63.0%である。

【漁業の概要】

- 市の西側に広がる東京湾の北部海域はノリ養殖やアサリなどの貝類養殖に適している。
- 南部海域は良好な磯根資源を有し、サザエやタイなどの高級魚介類の生息に適している。
- 令和5年の新富津漁協正組合員は91人、准組合員29人である（令和3年に富津市下洲漁協と合併）。
- 主な漁業種類はノリ養殖（32経営体）、小型底びき（23経営体）、刺し網（14経営体）
- ノリ養殖は昭和46年には236経営体であったが、現在と比較すると約8割減となっている。
- ノリ養殖は県内の約6割近くを生産し、「新富津海苔」として販売しブランド化に取り組んでいるが、近年海水温上昇による漁期の短縮化やクロダイの食害により生産量が低下している。
- 漁業者の減少により、漁港南側の野積場用地と岸壁・水域の活用可能性が生じてきている。
- ノリ養殖に代わる漁業種類として、平成30年から漁協自営でカキ養殖に取り組み、令和5年に区画漁業権を取得「新富津漁協江戸前オイスター」として千葉ブランド水産物に認定された。

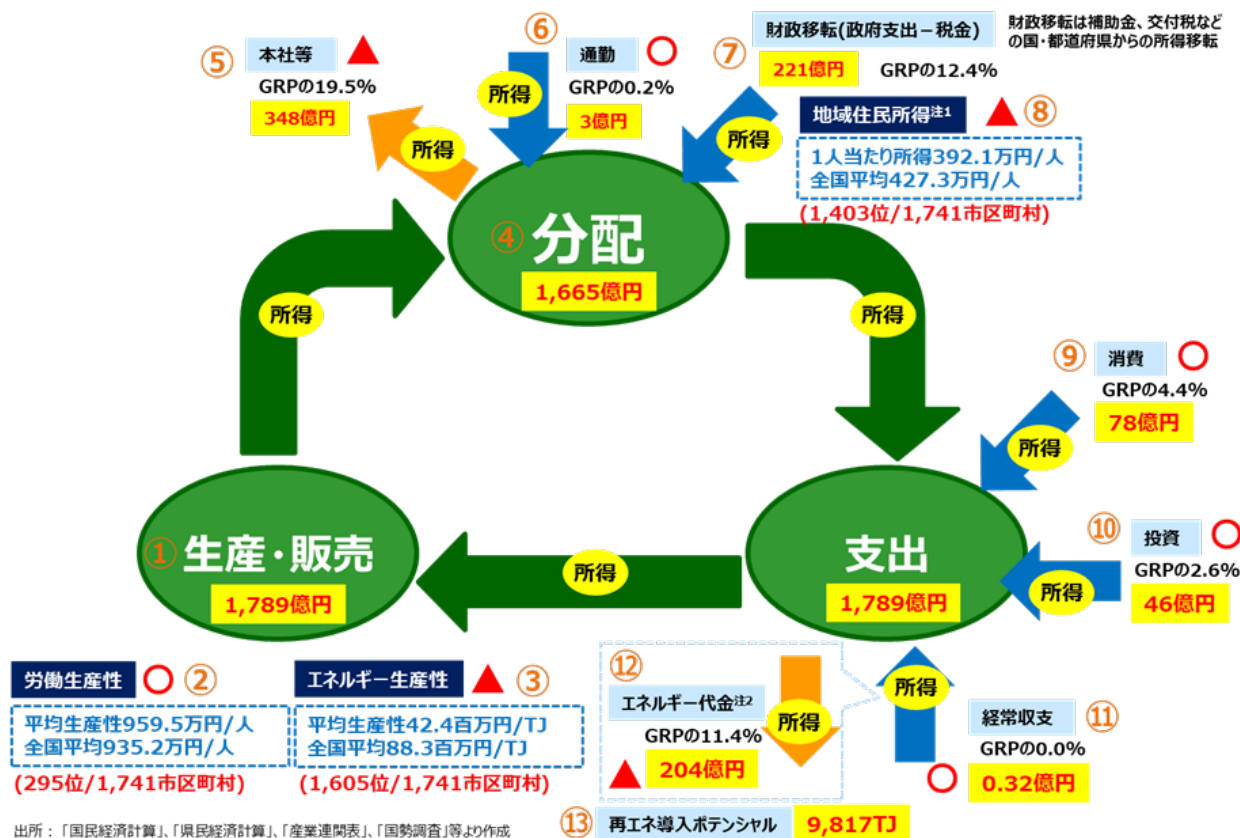
【観光の概要】

- 富津市には南北40kmの海岸線があり、富津岬一帯の海岸は南房総国定公園に指定されている。
- 富津岬は、冬の晴れた日には三浦半島、富士山を一望でき、関東の富士見百景にも選定されている。
- 令和4年の富津市の観光入込客数は年間約164万人（県観光入込調査）で、マザー牧場（約76万人）、鋸山ロープウェー（約35万人）、県立富津公園（約16万人）、富津海岸潮干狩り（約8万人）となっている。
- 漁港に隣接する布引海岸に富津海水浴場を開設（期間は7月中旬～8月中旬）されている他、令和5年から、漁港を会場に「シーサイドマルシェ」（商工会主催）を開催し、約4,000人が来場している。
- 遊漁船に取り組む意向のある漁業者もいる。



[地域経済]

- 富津漁港（下洲）地区が属す富津市の生産・販売は、全体で1,789億円の収入がある。また、そのうち労働生産性は、全国平均より約24万円/人高い状況にある。
- 収入は全体で1,665億円あり、地域住民所得は1人あたり392万円で全国平均よりやや低い。支出は全体で1,789億円であり、そのうち市内での消費が78億円、投資が46億円流入する一方で、経常収支が0.32億円、エネルギー代金が204億円が市外に流出している。



注1) 地域住民所得は、世帯人口1人当たりの所得(=雇用者所得+その他所得)を意味する。
 注2) エネルギー代金の収支は経常収支の内数であり、原材料利用や本社・営業所等の活動(=非エネルギー)は含まれない。※Ver5.0までは含まれる

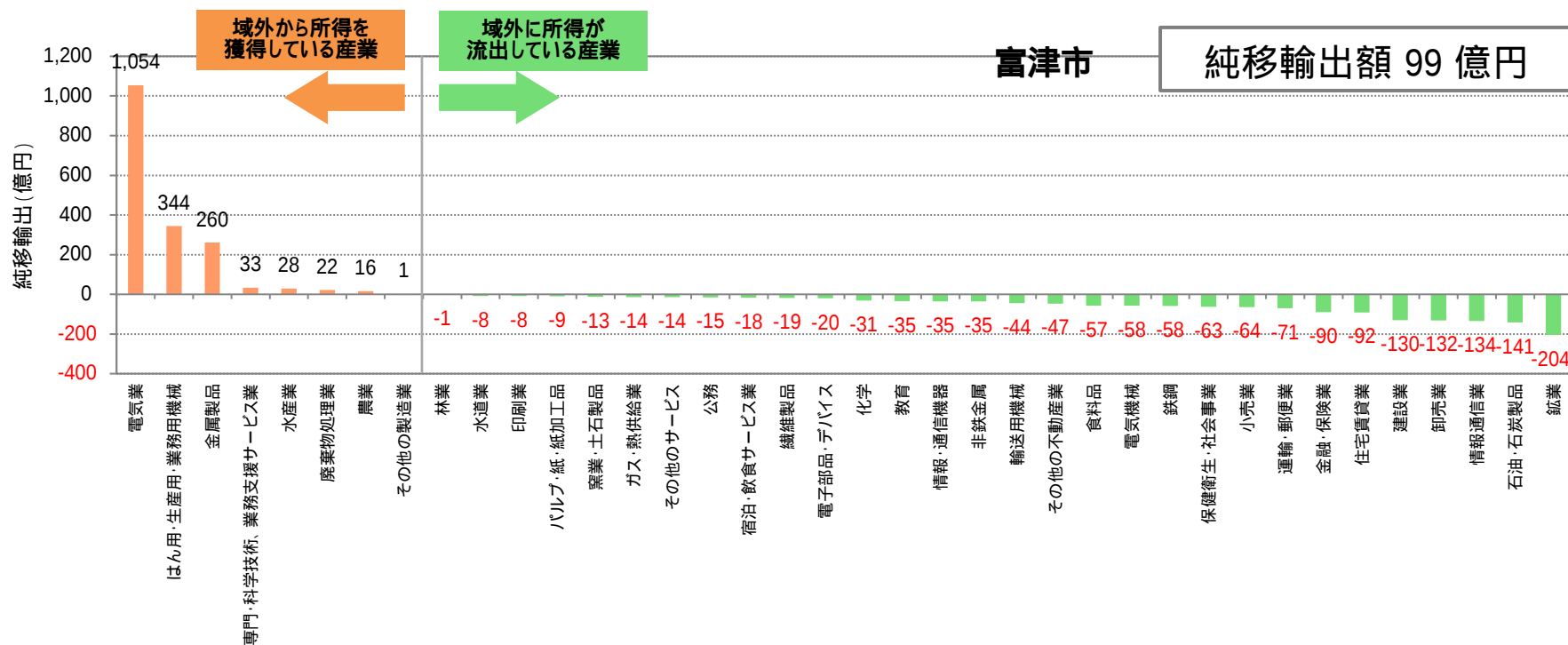
○富津市（下洲）地区が属す富津市の産業は、電気業、水産業、金属製品等が比較優位性が高い。水産業は全国平均に対して7.34と高い係数を示している。

[illegible][illegible]

〔地域経済〕

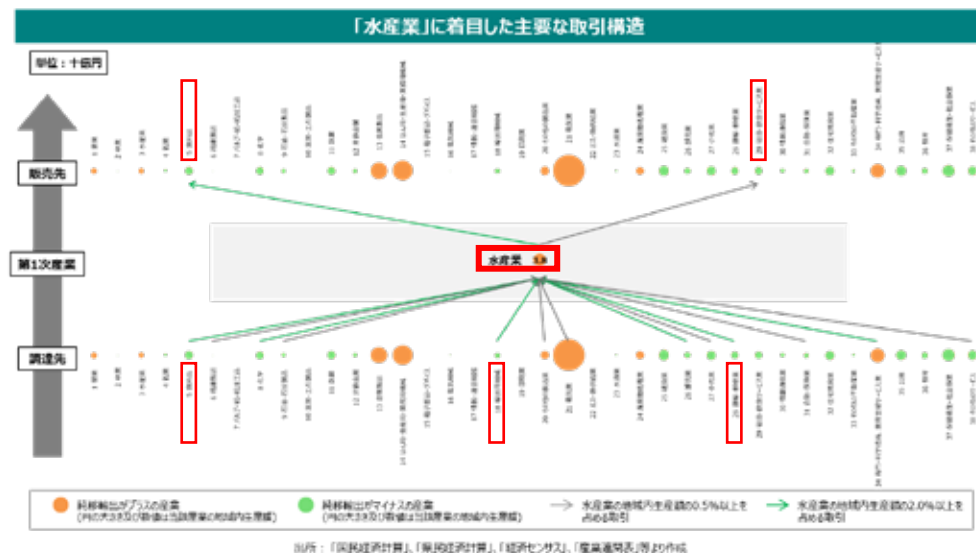
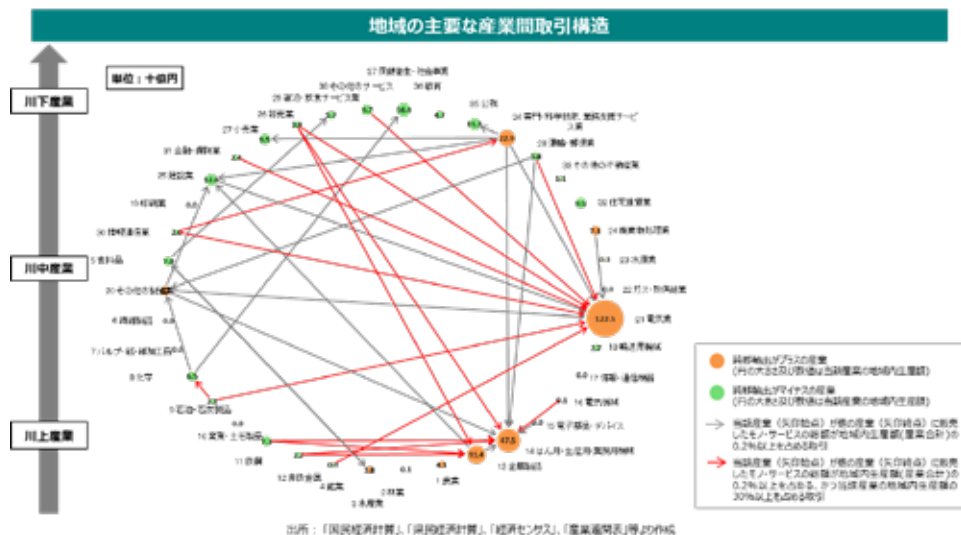
- 域外から所得を獲得している産業は特に電気業であり、はん用・生産用・業務用機械、金属製品、専門・科学技術・業務支援サービス業、水産業、廃棄物処理業、農業、その他の製造業に続く。これらは、域内での生産額が大きい産業であり、地域で強みのある産業といえる。

産業別純移輸出額



【地域経済】

- 富津市の水産業は生産額38億円で純移輸出はプラスとなっている。調達先は食料品、輸送用機械、運輸・郵便業等との取引が比較的強い。販売先は、食料品、宿泊・飲食サービス業との取引が比較的強い。



富津漁港（下洲地区）における海業の方向性

■ 地区の課題と取り組む海業の概要

	現状と課題等	海業で目指す姿	今後の取組予定
漁業生産	漁業者の減少・高齢化 ・漁業者だけで活動が困難 ・漁港・水域の活用余地 →漁協自営の生産活動 →民間企業と連携し、養殖漁業のさらなる推進が必要	○ 連携による養殖漁業の推進 ・カキの種苗生産を開始し、周辺漁協との連携により東京湾にカキ養殖が広がっている ・新たに取り組むアワビ養殖が定着している	民間企業等との連携強化 ・施設の規模・用地検討 ・生産・流通体制の確立
消費増進	ブランド化の取組 ・新富津海苔 ・新富津漁協江戸前オイスター ・商工会によるフェア開催（はかりめ丼、生のり） ・漁港周辺に飲食店が少ない	○ 水産物の消費拡大 ・魅力的な直売所・レストランがあり、賑わいが創出される ・地場水産物の消費が拡大し、漁業者の所得向上につながっている	事業化の検討 ・類似施設の視察 ・仮店舗での試験運営 ・施設、運営体制の検討
交流拡大	漁港周辺での交流機会 ・県立富津公園が隣接（再整備の計画がある） ・海水浴場で花火大会 ・商工会と連携しマルシェ開催 →漁業・漁港を核とした周遊プランの開発可能性がある	○ 漁業文化の継承 ・海苔の加工をはじめ、漁業の歴史・文化が体験されている ○ 地域一体での魅力向上 ・プレジャーボートの受入や周辺施設との連携により、新たな交流が生まれている	事業化の検討 ・体験プログラムの開発と情報発信の強化 ・類似施設の視察 ・施設、ルールづくり、運営体制の検討

海業の事業計画骨子【千葉県富津市 富津漁港（下洲地区）】

1．現状と課題

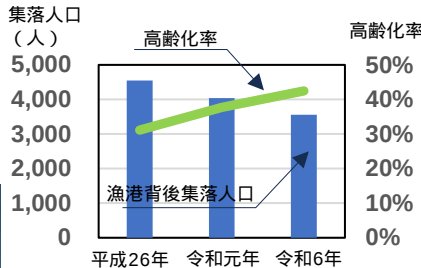
【地域・水産業の現状と課題】

- 富津市は房総半島の中西部東京湾側に位置し、北東部に君津市、東南部に鴨川市と鋸南町に隣接。
 - 市の西側に広がる東京湾の北部海域はノリ養殖やアサリなどの二枚貝養殖に適し、南部海域は良好な磯根資源を有し、サザエやタイなどの高級魚介類の生息に適している。
 - ノリ養殖は県内の約6割近くを生産し、「新富津海苔」として販売しブランド化に取り組んでいるが、近年海水温上昇による漁期の短縮化やクロダイの食害により生産量が低下している。新たな漁業種類として、平成30年から漁協自営でカキ養殖に取り組み、令和5年に区画漁業権を取得「新富津漁協江戸前オイスター」として千葉ブランド水産物に認定
- 【海業の現状と課題】
- 漁業者の減少・高齢化が進み、漁業者だけで海業の推進が困難となっている。
 - 「新富津海苔」、「新富津漁協江戸前オイスター」のブランド化に取り組んでいるが、漁港周辺に飲食店が少ない。
 - 商工会と連携し、地域経済活性化を目的とし、シーサイドマルシェを開催し、新富津漁協の取組や「江戸前オイスター」などの水産物を販売。

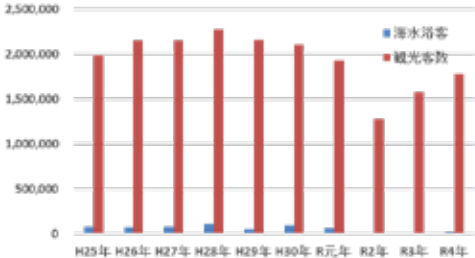


野積場

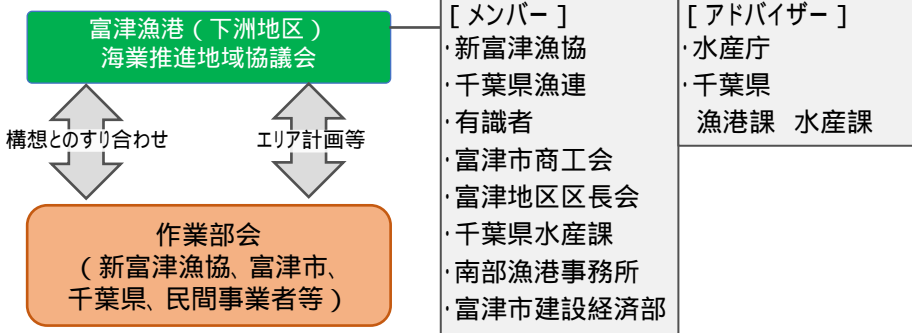
■ 漁港背後集落の人口と高齢化率 人口減少と高齢化の進展



■ 海水浴・観光交流の推移



2．検討体制



海業の事業計画骨子【千葉県富津市 富津漁港（下洲地区）】

3．海業の方針

水産業・富津漁港（下洲地区）を核として、水域を活用して海からのアクセスを促進、県内外から観光客やを呼び込むことで**賑わいを創出し、水産物の消費拡大**による魚価向上や所得確保を図るとともに、**交流拡大**を目指す

【取組】

- 漁港区域の新たな活用やイベントの拡大による富津漁港（下洲地区）の**賑わいづくり**
 - 商工会と連携しマルシェに漁協が出店、民間企業との連携で地元の水産物を提供する施設、直売所の整備等
- 海に親しむ新たな機会を提供するため海からのアクセスを促進し、交流拡大の**拠点づくり**
- 種苗生産から販売までを一貫して取り組んでいくための**体制づくり**

4．海業の具体的な取組・実施主体（案）・期待される効果

プレジャーボート等の係留施設整備
（漁協・民間企業等）
規模等は今後の検討

【期待される効果】

- 賑わいの創出
- 観光客の滞在時間の増加
- 域内産業の活性化
- 観光地としての魅力の増大

利便性向上事業（漁協・民間企業等）
規模等は今後の検討

【期待される効果】

- 域内での水産物消費拡大
- 漁業所得の向上
- 賑わいの創出
- 地域の雇用の創出

カキ養殖事業（種苗・生産等）の展開
（漁協・民間企業等）
規模等は今後の検討

【期待される効果】

- 域内での水産物消費拡大
- 漁業所得の向上
- 地域の雇用の創出
- 地域の魅力の増大



事業計画書について

■ 事業計画書 記載項目

策定者		
協議会メンバー		
対象地域と対象漁港		
地区の概要	地区の現状	地区の概要、産業構造と人口の推移、漁業の概要、観光の概要等
	上位・関連計画	上位・関連計画との関係、位置づけ
	地域の課題	上記を踏まえて地域の課題を整理
海業の概要	海業の目的	目的（ミッション）、地区が目指す将来像
	実施する事業	実施する事業、事業主体、実施時期等
	地域資源や魅力の活用	活用する地域資源や魅力、事業での活用方針、域内調達
	漁港ストックの活用方針	漁港ストック、およびその活用方針
	事業の効果	地元水産業の発展に寄与する内容、地域に与える効果
実施する各事業の ビジネスモデル	ビジネスモデル	何を、誰に、どのように提供するか、価格帯、見込客数等
各事業の実施項目と実施主体、活用したい支援事業等		
体制、人員計画、関係者の役割分担		
実施に向けた手続き・調整事項	手続き	各事業の実施に向けた具体的な手続き
	調整事項	今後必要となる調整事項の整理
財務計画	資金の検討、収益の検討	
実施にむけたタイムスケジュール案（これまでのまとめ）		

■ 事業計画の概要

プレジャーボート係留事業

■ 事業の概要：

- ・海に親しむ新たな機会を提供するため、民間企業と連携し、利用度が低い陸域・水域を活用して海からのアクセスを促進する。
- ・今後、施設規模や運営体制、活用制度・ルールづくりを検討する。

■ 事業主体：漁協・民間企業

■ 実施時期：令和7年度に試験的に受入を実施

■ 取扱商品：プレジャーボート等の係留・保管

(管理施設内で) 地元でとれた水産物の鮮魚や加工品。

■ サービスの内容：【長期係留】450,000円

■ 取扱商品、サービスのセールスポイント

・ターゲット：首都圏内在住の富裕層、観光客

・見込客数：55艇（斜路保管約40艇、陸上保管約15艇）

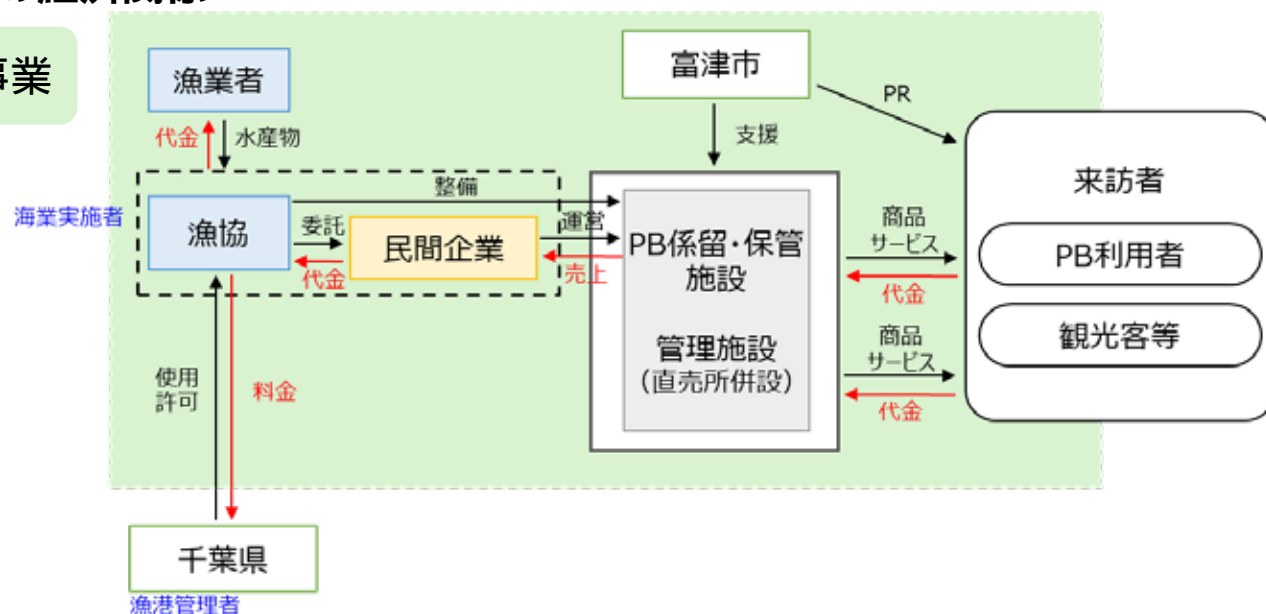
・販売戦略：プレジャーボート等の関係企業と連携し、試験的な受入を行う

■ 競合・市場など企業を取り巻く状況：近隣では富津市と木更津市にマリーナが立地している。

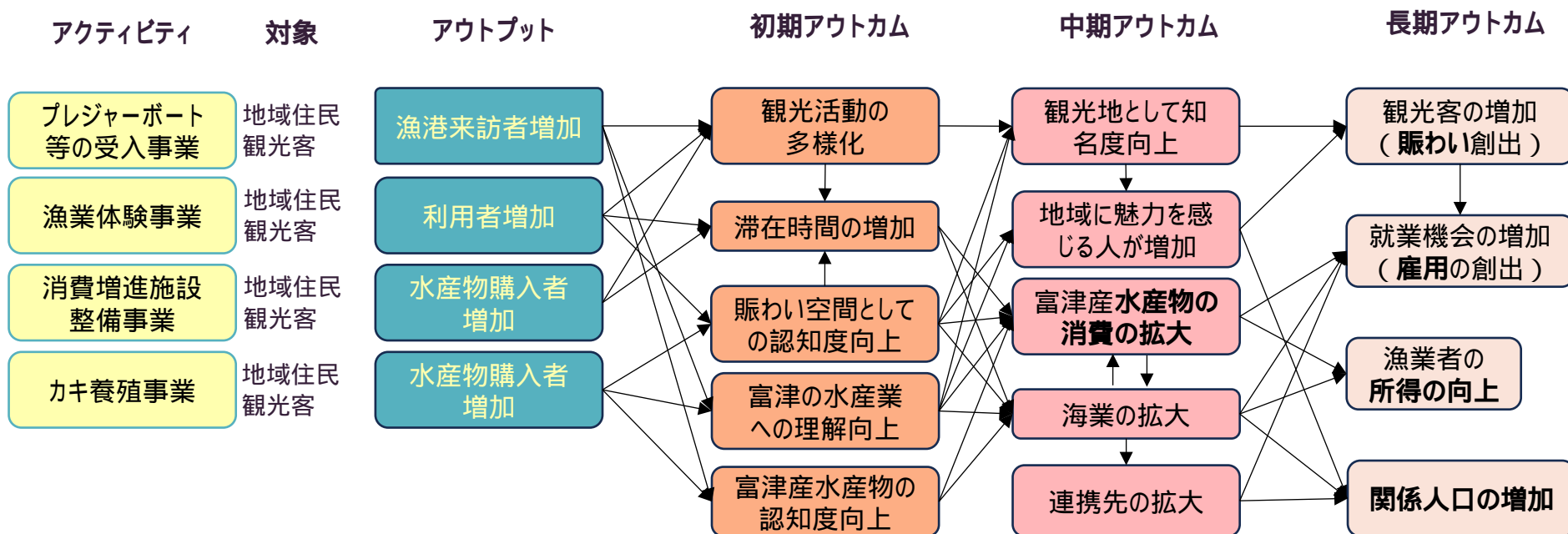
■ 海業の関係主体間の経済関係

R6時点での想定

プレジャーボート係留事業



■ 事業の効果（ロジックモデル）



海業計画 スケジュール（案）

事業名	実施主体	実現までの実施事項			実施時期										
		実施項目	概要	活用したい支援事業	短期					中期					長期
					R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16～
前提	千葉県	漁港施設等活用推進計画の策定	新富津漁港（下洲地区）の漁港施設活用にあたっての各事業の内容や区域等を決定												
プレジャーボート等の係留施設	新富津漁協 民間企業	調査調整	施設の実現可能性調査と試験的に営業し継続性を確認	-			★ 一部開業予定								
		施設構想	利便施設・水域施設の構想、補助の検討	-											
		施設設計	利便施設・水域施設の設計・概算費用算定	-						開業予定					
		施設整備	利便施設・水域施設の整備	-						★					
漁業体験	新富津漁協	調査調整	漁協内で漁業体験の実施可能性について調査、検討	-											
		試験実施計画策定	試験的に実施し継続性を確認し、実施計画を策定	-							継続実施				
消費増進施設	新富津漁協 民間企業	調査調整	施設の実現可能性を調査し継続性を確認	-											
		施設構想	施設構想、補助の検討	-											
		施設設計	設計・概算費用算定	-						開業予定					
		施設整備	施設整備	-						★					
カキ養殖	新富津漁協 民間企業	試験養殖	着底～1mmサイズのカキを試験養殖	-											
		漁場開拓	東京湾内での漁場開拓・試験養殖	-											
		施設構想	施設構想、補助の検討	-											
		施設設計	設計・概算費用算定	-						人工種苗生産開始					
		施設整備	施設整備	-						★					